

(松江城調査研究委員会 城郭史部会)

【第 1 回】天守台石垣調査 調査報告

日 時：令和 8 年 5 月 29 日（金）

9 時 00 分 ～ 16 時 30 分

場 所：松江城天守台石垣

出席者：城郭史部会 乗岡委員

岡崎専門調査員

松江市客員研究員 西尾委員

国宝松江城課

木下、飯塚、神庭、松井

史料・埋蔵文化財課 永野

1. 調査について

●概要

調査内容：①天守台石垣の刻印の再調査

②昭和の修理における天守台石垣解体範囲の確認

③拓本による加工痕・刻印の確認

●打ち合せ

刻印

- ・恩田清氏の資料に記載されるも未確認のものが含まれるため、改めて全体を確認し、拓本を採り記録する必要有り
- ・石垣上部は令和の大修理のタイミングで確認できるとよい

加工痕

- ・これまで積み方と割石の研究が全国的に行われてきたが、近年では加工痕や母岩からの分割類型、切合関係といった研究が進む
- ・分割から表面加工に至る成形・整形・調整の製作手順について検討・分類できるとよい

昭和の修理における解体範囲

- ・須田主殿史料の図面は当時施工前に作成された点は評価できる
- ・赤字で記された番号と実際の積み直し範囲とが合致するか再検討する必要有り

その他

- ・澤田委員の調査では、天守台石垣上部の石材についての帯磁チェックが未実施
- ・瓦について、市史では瓦当文様と分類を主に扱ったが、今後は丸瓦・軒平瓦の調整技法等も対象とすべき
- ・令和の修理で瓦を降ろす際に番号をつけて場所が把握できるようにし、分類して取りまとめもらえるよう調整するとよい

●調査の結果

①天守台石垣の刻印の再調査

- ・恩田資料に記載される北面石垣の星形の刻印は確認できず
- ・同じ面の中央下部の○に一とされる刻印は、拓本を採取も明確に刻印と判断するのは難しい

②昭和の修理における天守台石垣解体範囲の確認

- ・別紙「松江城天守台石垣調査結果 20260529」参照

その他

- ・効いている石は挟み石、後から入れられるものが間詰石 → 石の大きさに判断できない
- ・矢穴は一般的に大から小へ遷移。深いものが割面が長く、先行して割られたなど順序を追うことができる
- ・矢穴もサイズを計測し図面に落とし込みが必要
- ・西面石垣は南面より積み方が整っている。隅角部のビシャン打ちなどは近いところから見せる意図を確認できる

③拓本による加工痕・刻印の確認

刻 印：西面の地紙型、北面の○に一または輪違紋か、東面の周の3箇所採取

加工痕：西面の北側隅角部、西面北側下部の2箇所採取

・今後の調査

①令和の修理での足場を利用した上部の確認が必要

②確認した範囲を図面に落とし込み、実際の施工範囲及び須田史料と異なる箇所を明確化。赤字にて数字を記載した意図も要検討（未修理箇所にある石工ワタナベ等も）

③刻 印：今回採取した拓本はデータ化し、濃淡を調整しながら確認

加工痕：パターンを分類したうえで、図面上で塗り分けし資料化する

→どちらも表面だけでなく、内側の面も確認する必要

⇒今後の調査は着工前と着工後にできることを洗い出して実施する必要

調査成果をどういったかたちで掲載するか見通しを立てるとよい（修理完了後まとめてよりは個別のタイミングで報告）